

令和6年度第1回南予南部交通アクセス向上検討会 議事概要

令和7年3月25日（火） 13:30～15:30

南予地方局 7階 第2会議室

○目的

予土線沿線を含む南予南部地域において、地域の医療、教育、福祉などの移動ニーズ等を踏まえながら、新たな交通体系を「共創」することを目指し、関係市町、国、県、交通事業者等の関係者間で、地域の現状や本検討会の今後の方針について意見交換を行ったもの。

○出席機関

宇和島市、松野町、鬼北町、愛南町、愛媛運輸支局、四国旅客鉄道㈱、宇和島自動車㈱、愛媛県交通政策室、愛媛県南予地方局 ※愛媛大学松村教授がアドバイザーとして参加

○主な協議内容

（委員の追加）

- ・出席者からは、市立宇和島病院等の基幹病院、社会福祉協議会、各学校、観光分野等の参画について意見があった。

（選定方法・スケジュール）

- ・事務局から次の内容を説明し、出席者の了解を得た。
- ・各市町において5月末までに追加委員の候補者をリストアップし、内諾を得た上で検討会に推薦、委員間で共有した後、事務局にて指名手続を行う。
- ・新たな委員を加えた検討会を7月に1回、9月までにもう1回開催することを想定。状況によっては、県の予算の参考にもしたいと考えている。
- ・詳細な依頼や回答方法は追って連絡する。

（その他意見）

- ・愛南町から、次のとおり本検討会の基本的な方針について確認があり、事務局で再度整理を行うこととなった。
- ・宇和島市を中心に予土線を軸においた交通のあり方を検討会する会なのかどうかによって、観光分野の参画検討も含め、愛南町としての関わり方が変わってくるので、方向性を改めて示していただきたい。

○主な発言内容（要約）

（議事3関係）

◆栗田委員代理・四国旅客鉄道

- ・モーダルミックス実証実験は、関係者にご苦勞をかけお詫び申し上げます。利用者からは便利だという声もいただいているので、今後もぜひ展開したい。引き続きご協力をお願いします。

◆井上委員・松野町

- ・当町はデマンドと定時定路線の交通により交通空白解消を目指している。町民からは、町外に行きたいとの声があるが、町外に動くには幹線を利用するべきと考えている。

地域内の移動はしっかり町が取り組んでいく。

◆中川会長・県交通政策室

- ・JR と宇和島自動車がこの地域の幹線を担っているという認識。これらを利用するまでの、バス停や駅までの二次的交通をどうにかできないか、という思い。

(議事 4 関係)

◆毛利副会長・県南予地域政策課

- ・電動キックボードは何台設置するのか。

◆中川会長・県交通政策室

- ・1 ポート 4 台で計 20 台を配置予定。宇和島市内に 2 ポート、他 3 町は 1 ポートずつ。サイクルトレインは平日も含めた運行を検討する。

◆田中委員・宇和島自動車

- ・電動キックボードを利用するのに、免許やヘルメットは不要か。

◆中川会長・県交通政策室

- ・免許は不要だが、16 歳以上でないと利用できない。ヘルメット着用は努力義務だが、愛媛県であるので着用を促したい。

◆毛利副会長・県南予地域政策課

- ・無料 Wi-Fi 整備は、高知県までカバーするのか。高知県との費用負担はどうか。

◆中川会長・県交通政策室

- ・無料 Wi-Fi を搭載した車両は高知県も運行するが、費用負担を求めているはいない。搭載車両を予土線 3 兄弟としたのは、予土線以外の運行に使われない車両であるため。

(議事 5 関係)

◆井亀委員・宇和島市

- ・高知県や愛南町など遠方から市立宇和島病院を利用する方は、早いと朝 7 時には病院に来ていて、以前は開院時間前から診療していた。遠方からの通院ニーズも考え、医療分野として、市立宇和島病院の関係者を提案する。

◆井上委員・松野町

- ・一番予土線を利用しているのは高校生。また、数年後に予土線のメインユーザーとなる中学生や先生方といったリアルユーザーの声を拾うことが一番と考える。

◆山本委員・愛媛運輸支局

- ・学生の声を拾うことができたらよい。学校行事に公共交通機関を使う他県事例もある。

◆栗田委員代理・四国旅客鉄道

- ・学生に意見をもらっても、現実を突きつけるだけにはしたくない。いかに交通機関を使ってもらうかが肝要なので、沿線のまちづくりの観点も必要。

◆井上委員・松野町

- ・若い人に、いずれ町に戻ってきてもらうためには、まちづくりに参加する経験を持ってもらうことが重要だ。
- ・一番大事なのはまちが残ること。交通機関の維持はそのための手段。

◆田中委員・宇和島自動車

- ・宇和島市の災害復旧委員を務めているが、話し合いには宇和島東高生も参加している。若い人がオフィシャルな場に参加する・発言することは大事。アドバイザーという形での参画もよいのでは。
- ・バスの通院利用は宇和島市立病院が中心。

◆立花委員・愛南町

- ・分野は教育、医療、福祉が核になることは理解。実施したアンケート結果を見ると、観光分野の参画があるとよい。このほか、検討の重きは予土線に置かれるのだろうか。検討の方向性を否定する意図ではないが、愛南町の立ち位置を確認したいので、事務局での整理をお願いします。
- ・福祉分野については、高齢者施設は公共交通の利用に馴染まないが、障がい者の利用はある。

◆小川委員・鬼北町

- ・今回の JR ダイヤ改正では学校はずいぶん苦労した。生徒や先生の声聞けるように。

◆毛利副会長・県南予地域政策課

- ・北宇和高校のヒラノ校長をぜひ。加えて、宇和島市内の高校関係者か。

◆中川会長・県交通政策室

- ・出席者意見や事務局からの提案をまとめると、学校、生徒、観光、市立宇和島病院、社会福祉協議会が候補になるとの認識。本日の議論を踏まえ、方向性や人数規模などについてはあらためて県内部で検討させていただく。
- ・後日整理の上、事務局から報告・依頼させていただく。

(松村アドバイザーからの助言)

- ・事業を実施するには、定量的な数値による測定、評価ができるよう考えるべき。例えば「施策を講じた結果、待ち時間が何分減った」といった具合。県の KPI にどれほど寄与するのかを評価できなければならない。
- ・高校生がメインユーザーなので、関与を強めるべき。旅費さえ出してもらえたら、私が各高校へ出向くことは差し支えない。高校生が、自分たちの意見が反映されることを実感できるように。
- ・愛媛県は、国の共創プロジェクトの活用が少ない。もっと活用してよい。来年度の共創プロジェクトの応募を前提に今年度取り組みを進めてはどうか。
- ・多様な関係者については、令和7年度に実施することに絞って追加することを考えるべき。行政は参画者のバランスを考えがちだが、やることにコミットできる人加えるよう考えてみてはどうか。

以 上